



2024年3月期 (FY2023) 本決算概要

2024年6月26日

千代田化工建設株式会社

(証券コード: 6366)



© Chiyoda Corporation 2024, All Rights Reserved.

説明者



代表取締役会長
榊田 雅和



取締役 社長
太田 光治



代表取締役専務執行役員 CFO
出口 篤

AGENDA:

1. 決算発表のポイント
2. ゴールデンパスLNGプロジェクト 概要
3. 直近の状況
4. 主要案件の進捗
5. 損益計算書
6. 損益変動要因(純利益・純損失)
7. バランスシート
8. 受注高・受注残高

【付表1】完成工事高・受注残高内訳
【付表2】業績推移

Our SDGs Materiality

7 エネルギーをいかに
効率的に
7
9 産業と資源効率の
向上につなぐ
9
13 気候変動に
適応する
13

CHIYODA CORPORATION
エンジニアリング
社会の“かなえたい”を共創する
Enriching Society through Engineering Value

1

社長の太田です。

本日は直前のご案内にもかかわらず、2024年3月期 通期決算のオンライン説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

まずはじめに、決算発表が大変遅くなり、株主をはじめ多くのステークホルダーの皆様にご迷惑とご心配をおかけいたしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

これまでの適時開示でお知らせしております通り、米国にて遂行中のゴールデンパスLNGプロジェクトの工事状況に精査が必要な状況が生じました。加えて、その影響を修正後発事象として2024年3月期決算に反映させる必要があり、決算発表予定を延期したうえで、関係者との協議を継続してまいりました。本日時点でもまだ協議は終了しておりませんが、6月28日に予定されている株主総会や、有価証券報告書の提出期日が迫っていることなどもあり、決算を確定、開示することといたしました。

その結果、今期は、当期純利益が158億円の赤字となることとなりました。株主をはじめ、多くのステークホルダーの皆様にご迷惑とご心配をおかけいたしますこと、深くお詫び申し上げます。

一方で、ゴールデンパスLNGプロジェクトの顧客とは協調して完工を目指すことを確認しており、完工に向けた新体制やプロジェクト契約の改定も含め、顧客からサポートを得る方向で協議を続けております。

株主をはじめ、ステークホルダーの皆様には、ご心配をおかけする状況が続いておりますが、引き続きご理解、ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

■ サマリー

それでは、まず私からは、2024年3月期決算発表におけるポイントおよび
ゴールデンパスLNGプロジェクトの概要について説明をさせていただきます。

1. 決算発表のポイント

ゴールデンパス LNGの状況・ 決算への影響

- ゴールデンパスLNGプロジェクトを共同遂行するZachry社が米国連邦破産法第11章(Chapter11)を申請。同社の離脱を巡る裁判プロセスとともに、今後のプロジェクト完工に向けた顧客とJV間の協議が継続中。
- 2024年3月期決算確定のため、現時点で存在している合意文書を踏まえた契約金額および十分な費用を考慮して、▲370億円を計上(完成工事総利益)。
- この結果、2024年3月末の自己資本は49億円となる(前期末は222億円)。

今後の対応

- Zachry社の離脱後、速やかに新体制下で将来の遂行プランに合意、採算の見直しを実施し、早期の自己資本回復を目指す。
- 本件は、EPC契約上連携して遂行を請け負うことによるパートナーリスクの顕在化に起因しており、今後は顧客ならびにJVパートナーとの協業を通じた健全な遂行体制を構築することで、斯かるリスクの抑制を図っていく。

業績の 見通し

- 2025年3月期業績見通しは、ゴールデンパスLNGでの顧客との協議が継続していることから、現状での公表を見送る。
- 2024年3月期決算と同日に開示予定であった次期中期経営計画については、今般の事象を踏まえて精査を行ったうえ、適切なタイミングで開示予定。

右下3ページ、「1. 決算発表のポイント」をご覧ください。
本日特にお伝えしたいことを三点にまとめております。

まず、「ゴールデンパスLNGプロジェクトの状況および決算への影響」についてです。
ゴールデンパスLNGプロジェクトを共同遂行するJVパートナーであるZachry社が米国連邦破産法第11章、いわゆるChapter11を申し立て、法的再建手続きに入りました。
現在、Zachry社がプロジェクトから離脱する前提のもと、プロジェクト完工に向けた顧客とJV間の協議が継続しております。
時系列に沿った詳細は後ほどご説明いたしますが、今期の決算確定のため、現時点で存在する合意文書を踏まえた契約金額および十分な費用を考慮して、マイナス370億円を一旦計上し、本日の決算公表に至りました。
その結果、24年3月末の自己資本は49億円となりました。

二点目は、「今後の対応」についてです。
まずは顧客とJV間での協議に真摯に取り組み、Zachry社が離脱した後、速やかに新JV体制下での将来の遂行プランに合意の上、採算の見直しを目指します。
また、本件はEPC契約上のパートナーリスクが顕在化したことに起因していると考えており、今後は顧客ならびにJVパートナーとの協業を通じた健全な遂行体制を構築することで、リスクの抑制に取り組んで参ります。

三点目は、「業績の見通し」に関してです。
2025年3月期の業績見通しは、ゴールデンパスLNGでの顧客との協議が継続していることから、現状での公表は見送りとさせていただきます。
また、再生計画後の次期中期経営計画も、今般の事象を踏まえて精査を行ったうえ、適切なタイミングで開示させていただきます。

2. ゴールデンパスLNGプロジェクト 概要

Golden Pass LNG Export Project

- **顧客名**
Golden Pass LNG Terminal, LLC
< QatarEnergy 70%, ExxonMobil 30%のJV >
- **プロジェクト総額/ 当社契約額(受注時)**
約1兆円 / 約3,000億円
- **建設地**
Sabine Pass, Texas, USA
- **スコープ**
液化天然ガス(LNG)年産520万トン×3TrainのLNGプラント
および付帯設備のEPC業務
- **完工予定(当初予定)**
2024年後半 1st Train

- **JVフォーメーション**

Golden Pass LNG Terminal, LLC

CCZJV^{*1}

調達	プロジェクトマネジメント	試運転
設計	建設	
CIC ^{*2}	CB&I (McDermott)	Zachry

- ✓ 調達/プロジェクトマネジメント/試運転等は、3社でのJVで請負う。
- 設計はCIC、建設はCB&I・ZachryのLumpsum(固定請負)契約。
- ✓ Zachryの離脱確定後は、CICとCB&Iの2社体制で遂行予定。

*1 CIC、CB&I、Zachryのジョイントベンチャー(共同事業体)

*2 Chiyoda International Corporation(千代田化工建設の米国100%子会社)

次に、ゴールデンパスLNGプロジェクトの概要を改めて説明させていただきます。右下4ページのスライドをご覧ください。

ゴールデンパスLNGプロジェクトは、2019年2月に受注した案件です。顧客はカタールエナジーが70%、エクソンモービルが30%を出資する「ゴールデンパスLNG社」で、契約当初の為替レートでの換算で、総額は約1兆円、当社契約額は約3,000億円という大型プロジェクトです。

当社の米国子会社であるCIC社、CB&I社、Zachry社の3社でジョイント・ベンチャーを組成し、設計についてはCIC社、建設についてはCB&I社とZachry社がそれぞれランプサム契約を締結し、調達を含むそれ以外の業務はJV共同で請け負う形で進めてきました。

今回、Zachry社が離脱することを前提に、CIC社とCB&I社の2社で新たにJVを組成し、プロジェクトの完工に向けて進めていくべく、顧客と協議を進めております。

3. 直近の状況

- ～ 5月8日 ● ✓ 米国で遂行中の主要案件であるゴールデンパス LNG プロジェクトにおいて、JVパートナーのZachry社の離脱の可能性を踏まえ、顧客・JV間でプロジェクト遂行に向けた協議が続いていたが、決算発表予定の直前までに協議がまとまらず、決算発表日の延期を決定
- 5月22日 ● ✓ Zachry社が米国連邦破産法第11章 (Chapter11) を申し立て (現地時間5月21日)
- 6月7,8日 ● ✓ 工事継続に必要な安全対策業務等の裁判所許可が発行され、顧客による上記発注及びプロジェクト遂行に必要な資金の支払い手続きが開始
- 本日 (6月26日) ● ✓ 現時点で存在する合意文書を踏まえた契約金額および十分な費用を考慮して、決算を確定、公表
- 7月1日 ● ✓ 有価証券報告書 提出 (予定)
- 第2四半期
～
第3四半期 ● ✓ Zachry社の離脱後、速やかに、新JV体制下での短期的な遂行プランおよび完工までの長期的な遂行プランに合意の上、採算の見直しを実施し、自己資本の回復を目指す

ゴールデンパスLNGプロジェクトに関するここまでの状況を説明します。
右下5ページのスライドをご覧ください。

Zachry社がChapter11の申し立てを行った後、裁判所の審理は継続している状況ではございましたが、6月7日および6月8日に顧客からCIC社およびCB&I社宛に建設工事継続に必要な安全対策業務などの発注を行うことに関する裁判所の許可が下り、当該作業が再開され、またプロジェクトの進捗に伴う必要資金の支払いも開始され、本日に至ります。

今後の予定として、決算手続きに関しては、期日である7月1日に、有価証券報告書を提出する予定です。

また、本プロジェクトに関しては、Zachry社の離脱が決定した後、速やかに新JV体制下での短期的な遂行プランおよび完工までの長期的な遂行プランに合意の上、第2四半期、第3四半期に合意内容を踏まえて、採算の見直しを実施し、自己資本の回復を目指していきます。

4. 主要案件の進捗

案件	カタール・NFE LNG	インドネシア銅製錬
顧客	QatarEnergy	P.T. Freeport Indonesia
パートナー	Technip Energies	N/A
完工予定	2025年～2027年(4系列)	2024年
進捗	設計作業が終盤、調達・現場工事がピークを迎え、遂行中。	今年中の完工に向けて、建設工事が終盤を迎える。 Pre-commissioning(試運転)作業へと移行。



Courtesy of Qatargas



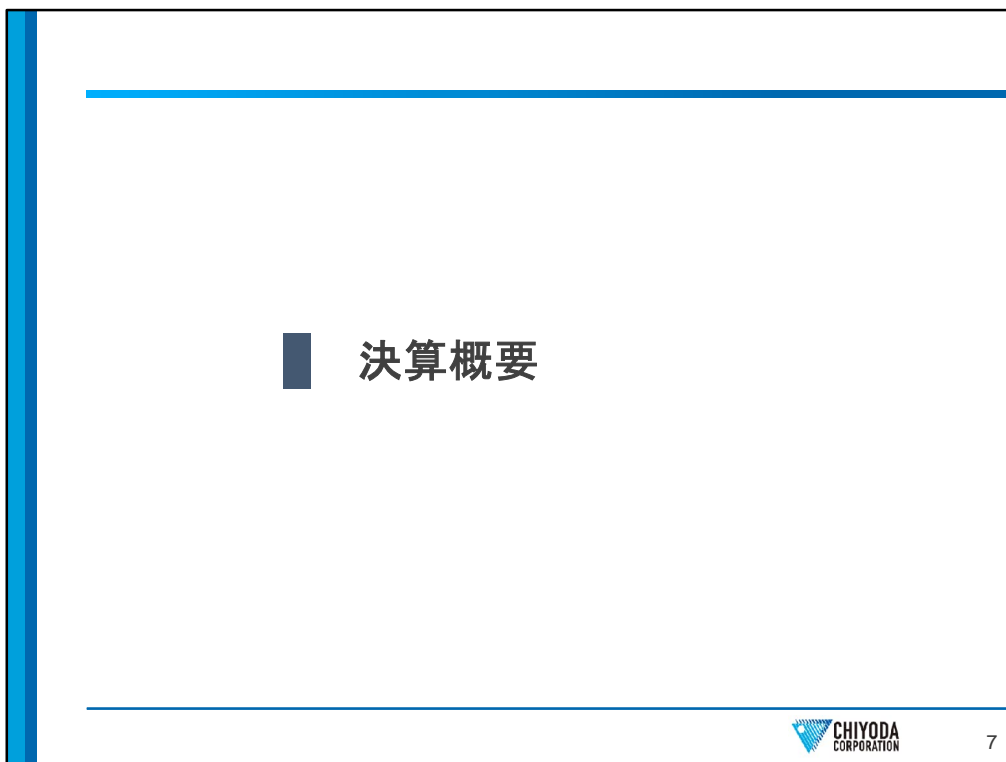
Courtesy of P.T. Freeport Indonesia



次に、ゴールデンパスLNG以外で現在遂行中の海外大型案件2件の状況をご説明します。
右下6ページのスライドをご覧ください。

現在、カタールNFE LNGプロジェクトとインドネシア銅製錬プロジェクトを遂行しています。
両プロジェクトとも、現在順調に進捗しており、インドネシア銅製錬プロジェクトに関しては、今年中に完工する予定です。

私からの説明は以上です。
決算の概要については、CFOの出口よりご説明申し上げます。



CFOの出口です。よろしくお願いいたします。

2024年3月期決算の概要について、資料に沿って、ご説明申し上げます。

5. 損益計算書

(単位:億円)

	2月5日 修正 通期予想	FY2023	増減	FY2022
完成工事高	5,000	5,060	60	4,302
完成工事総利益	360	^{1, 2} Δ2	Δ362	327
完成工事総利益率	7.2%	Δ0.0%	Δ7.2pt	7.6%
販売費・一般管理費	Δ150	Δ148	2	Δ146
営業利益	210	Δ150	Δ360	181
経常利益	280	Δ55	Δ335	203
純利益 ^{*1}	180	Δ158	Δ338	152
為替レート(円/米ドル)	145	151		134

1 Golden Pass LNG 関連

- ✓ Zachry社の離脱の可能性を踏まえ、現時点で存在している合意文書を踏まえた契約金額および十分な費用を考慮してΔ370億円を計上。

2 分野別 内訳

- ✓ 完成工事総利益

分野	FY2022	FY2023
エネルギー	209	Δ223
地球環境	118	222
合計	327	Δ2

*1 親会社株主に帰属する当期純利益



8

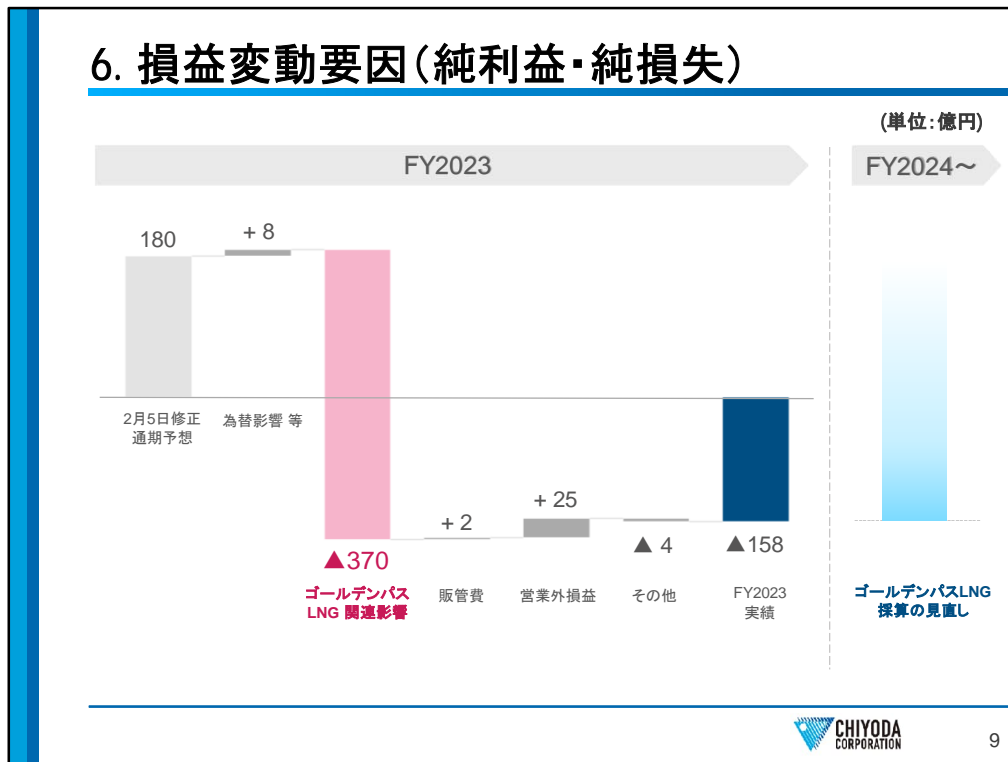
右下8ページのスライドをご覧ください。

2024年3月期の完成工事高は5,060億円、ほぼ前回予想に近い水準となりました。

利益に関しては、完成工事総利益はマイナス2億円、営業利益はマイナス150億円、経常利益はマイナス55億円、純利益はマイナス158億円となり、いずれも前回予想を大幅に下回りました。

なお欄外に注釈をいれておりますが、ゴールデンパスLNGプロジェクトにおいて、マイナス370億円を、計上しております。

6. 損益変動要因(純利益・純損失)



次に、純利益および純損失の前回業績予想比での利益増減分析です。
右下9ページのスライドをご覧ください。

グラフの一番左側、180億円という数字が前回予想値です。

完成工事総利益の下振れ額の大半はゴールデンパスLNGに関連する影響となります。
この影響が無ければ、純利益は前回予想値をやや上回っての着地となっておりました。

7. バランスシート

(単位:億円)

	FY2022	FY2023	増減		FY2022	FY2023	増減
流動資産	3,830	4,044	214	流動負債	3,563	4,122	559
現金・預金等	612	1,021	408	営業負債 ^{*3}	2,927	3,225	298
営業資産 ^{*1}	586	465	△121	工事損失引当金	279	365	86
JV持分資産 ^{*2}	1,616	1,470	△146	固定負債	280	87	△193
固定資産	236	226	△10	純資産	223	61	△162
総資産	4,066	4,270	204	負債・純資産	4,066	4,270	204
				自己資本	222	49	△173
				自己資本比率	5.5%	1.1%	△4.3pt

*1 営業資産＝受取手形・完成工事未収入金及び契約資産＋未成工事支出金

*2 JV持分資産＝ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金

*3 営業負債＝支払手形・工事未払金＋契約負債（未成工事受入金）



10

次に、バランスシートをご説明します。
右下10ページのスライドをご覧ください。

自己資本は、前期末比173億円減少し、49億円となり、自己資本比率は1.1%となりました。

財務健全性が著しく低下した状態となりますが、その要因の大半がゴールデンパスLNGに関する影響を考慮したことによるものであり、早期に将来の遂行プランに合意することで、自己資本の水準を回復させることを目指しております。

なお、現預金は1,021億円を有しており、当社の業務運営には支障はございません。

8. 受注高・受注残高

(単位:億円)

	FY2023 受注高	FY2023 受注残高
エネルギー分野	878	7,453
地球環境分野	1,497	2,485
合計	2,375	9,939

【受注残高 主要案件】

	1,000億円以上	500億円以上	50億円以上
エネルギー分野	カタール・NFE LNG	米国ゴールデンパスLNG	---
地球環境分野	インドネシア銅製錬	---	CO ₂ メタネーション設備 バイオ医薬品原薬製造設備 先端素材生産設備

次に、右下11ページ「8. 受注高・受注残高」をご覧ください。

受注高は2,375億円、通期予想3,000億円に対して8割程度の達成となりました。

【付表1】完成工事高・受注残高内訳

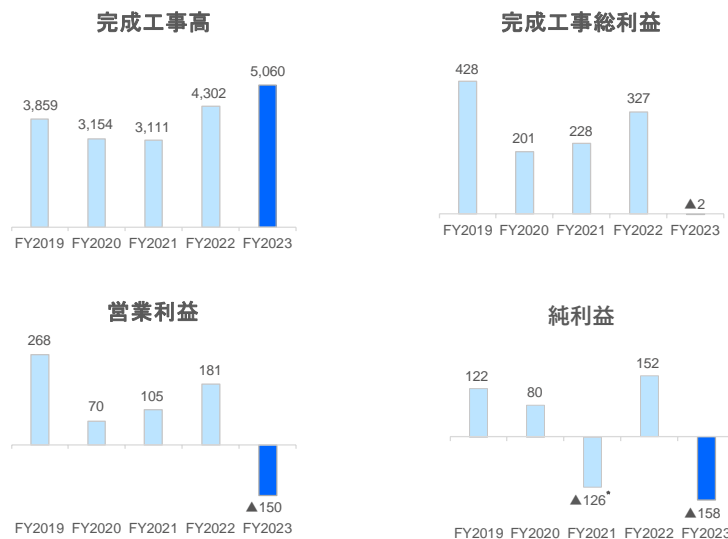
(単位:億円)

FY2023 完成工事高			FY2023 受注残高		
【分野】			【分野】		
エネルギー	2,752	54%	エネルギー	7,453	75%
■ LNG・その他ガス関係	2,449	48%	■ LNG・その他ガス関係	7,131	72%
■ 石油・石油化学	303	6%	■ 石油・石油化学	322	3%
地球環境	2,308	46%	地球環境	2,485	25%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	311	6%	■ 医薬・生化学・一般化学関係	980	10%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	1,997	39%	■ 環境・新エネルギー・インフラ他	1,505	15%
合計	5,060	100%	合計	9,939	100%
【地域】			【地域】		
海外	4,206	83%	海外	8,296	83%
■ 中近東・アフリカ	1,956	39%	■ 中近東・アフリカ	5,912	59%
■ 北中南米	170	3%	■ 北中南米	946	10%
■ アジア・オセアニア	2,077	41%	■ アジア・オセアニア	1,423	14%
■ その他海外	3	0%	■ その他海外	15	0%
■ 国内	854	17%	■ 国内	1,642	17%
合計	5,060	100%	合計	9,939	100%

右下12ページは、2024年3月期の完成工事高、受注残高の分野別、地域別の内訳です。

【付表2】業績推移

(単位:億円)



* 特別損失 ▲204億円含む(顧客との和解等によるプロジェクト関連損失)

CHIYODA CORPORATION

13

右下13ページは、2020年3月期以降、過去5年間の業績推移をグラフで一覧にしています。

以上で決算概要の説明を終わります。

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみによって投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】
千代田化工建設株式会社
総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション
E-Mail: ir@chiyodacorp.com

